



「喜多方市 / 新宮熊野神社と長床」

## 新型コロナウイルス感染症 受診相談窓口による相談結果がでたら

・新型コロナ外来**受診は必要**と判断された場合

新型コロナ外来  
(帰国者・接触者外来)

医師による判断

・新型コロナ外来**受診は不要**  
と判断された場合

検査の**必要あり**

検査の**必要なし**

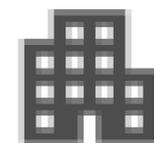


自宅で安静に過ごす



※ PCR検査

陰 性



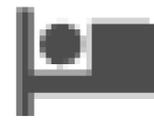
一般の医療機関を受診

※ 保険適用となる検査は当面の間、院内感染予防等の観点から「帰国者・接触者外来」等の医療機関で実施

・症状が良くなる場合は帰国者・接触者相談センターに相談



陽 性



入院となります  
感染症指定医療機関等

「福島県ホームページより」

介護に関する 「**お困りごと・ご相談事は**」



・ 若松営業所 0242-25-0620  
・ 喜多方営業所 0241-23-5170  
までご連絡ください

### 「回想と今」

戦後七十五の年を迎えました。私はその時十才でした。戦時には逢いませんでしたが、集団疎開を経験した。大変な生活を味わってきました。次第に世の中が落ち着いてきた頃に、会津の花嫁となり愛があるから大丈夫なのと右も左もわからず、親戚もない地に嫁いで参りました。健康だけが私の取り柄と思つて居りましたが、何度もの大病を乗り越えてやっと今に至って居ります。御縁があつて悠悠いきいき倶楽部に御世話になり、職員の皆様や利用者の皆様と休む事なく続けられていることに感謝の言葉で一杯です。何時迄続けられるかは未知数ですが、家に籠つていたら暈けるか病気になるかお願い申し上げます。感謝！

八十五才のバアバ



※日本における学童疎開

1944年、連合国軍による本土空襲が始まった(北九州の八幡空襲)直後、1944年8月4日、東京都から学童疎開第一陣が発発し、7月の緊急閣議で急遽疎開決定した沖縄県の学童は8月中旬、大阪市からは8月末に移動を始めた。以上の地域以外にも、横浜市、川崎市、名古屋市、神戸市と今の北九州市(当時は門司、小倉、戸畑、若松、八幡の各市)から周辺県への疎開が9月末までに集中的に行われた。疎開児童総数は40万人以上だった。

(ウィキペディア・フリー百科事典より)

「栄えある軍装（戊辰戦争）」

前月号の続き  
津上喜代美が門出に残した歌は少年白虎隊の気持ちを表すものだった。

かねてより親の教えのときはきて  
きょうの門出ぞ  
我はうれしき

少年白虎隊以外の子でも回覧板こと「家並みぶれ」に依りて城に駆け付けた者も多かった。十五歳の井深梶之助は洋服屋に注文していた軍服を急いでとりよせ、フランス型の帽子をかぶると今の関取のような鬘（「大タプサ」という）がじゃまになり切り落とした。鉄砲は手下の郎党に持たせ自分は小さな鎌槍を手にして家をでたが、城に行く途中は静かで人影はなかったといわれている。国産奉行河原善左衛門は恭順論者だったが、最後の死花を咲かせるため一族郎党とともに人参役所に駆け付けた。長男

の勝太郎は十五歳で次男勝治十一歳、甥の熊四郎は十四歳、若党の佐太郎は十五歳で白虎隊より若い少年部隊だった。勝太郎と熊四郎は白虎隊と同じくヤール銃を持ち、勝治は赤い筒袖の上着に白・黒縦縞の袴をはき、宇多国次銘の二尺二寸の刀を差して竹槍を持っていた。兄の勝太郎は「竹槍などでどうするのか」と聞くと、勝治は「これで敵の目を突くのだ」と胸をはった。若党の佐太郎は「丸に松川菱」の河原家の定紋を打った短い鯉のぼりの旗を風になびかせていたが、よく見ると鯉のぼりの胸を切り落とし頭と尾とを継いだものだった。この幟こそ「あやめ節句の武者人形」に育てられた少年の盛んな戦闘精神の旗印だった。

次月号へ続く

佐藤 一男

「身体障がい者の嘶叫し懇願する」

猪苗代町 田澤 一男

恥乍ら不注意（養生）で左半身不随になつてしまった。だから家族には迷惑を掛け厄介になる。時には我儘か「痒い所へ手が届かない」と口論、葛藤になるから外出は勧めない。心境（胸）は妻は夫が、子は父が身障者だと劣等感が？だから適宜一人でコンビニや百円ショップに郵便局へ出掛けたいと思う時が、一人で杖突き突き外出、その際に疲れて一休みするの場所に？だからS



悠悠いきいき倶楽部あいづ  
新入社員紹介

8月に入社致しました、大竹玖留水です。今年3月に福祉系の短大を卒業し、関東にある高齢者施設に就職致しましたが体の不調により退職し地元である会津に戻って参りました。そして、ご縁がありこちらで働かせて頂くこととなりました。分からないことや不慣れなことが多々あるかと思いますが、会社の一員として、会社や地元である会津に貢献できるように精一杯努めて参ります。宜しくお願い致します。

短くなりし秋の陽  
老いと思わせる  
コロナウイルス  
親子の絆を薄くし  
みらは子らの  
生きざまあり  
我は  
テレビ報道に泣き  
心弱れ  
なみしき 絵を描く  
学



作「野邊 学」

小春日や師の点てし茶を戴きぬ  
松 みどり  
（へや）

秋寒のコルチカム咲く教室の中  
Y 子

川 柳 川島 英雄

霜月に入ると山に白い客  
新米にブレーキかぬ天こ盛り  
新そばを競う郷土のそば祭り  
丹精の汗も宅配便に詰め  
手を抜くな母ことと落とし蓋  
歳重さね長所短所もまるくなる

外出の叶わぬ我に介護士は  
助手席よかると手を取り呉るる  
鈴木 キミ子

俳句 北山百合俳句会  
秋声を聴けり折鶴撃ぐとき  
中川 幸恵  
母よ母しあはせであれ赤のまま  
鈴木 隆一郎  
朝取りの茄子の漬け物あををと  
武藤 敏子  
満月を寒さこらえて見てをりぬ  
佐藤 信子

俳句  
白さぎや刈田に舞つて優雅なり  
秋風に柿色付きて西陽受け  
ミエ子

短歌  
外出の叶わぬ我に介護士は  
助手席よかると手を取り呉るる  
鈴木 キミ子



作「渡邊 鶴子」



作「高田 壽治」



作「高田 壽治」

「クウー」と鳴く頭上仰げば白鳥の  
二羽に思はずお帰りと云ふ  
坂内 久美子  
秋海棠を「幼子のかんざしのよふ」と  
言ひし母露ふむ花仏前に供う  
五ノ井 星子

私たち社員一同で  
真心を込めたサービスと  
感動を提供します。

福祉用具レンタル・販売・メンテナンス  
プライムケアイースト株式会社  
http://www.pc-east.com

灯油のご用命は当社にまかせください！

ENEOS(株)特約店

株式会社 栗林商店  
代表取締役社長 栗林 陽志

〒965-0042 会津若松市大町二丁目5-8  
TEL 0242-22-3930 FAX 0242-22-2335

車のことなら何でもおまかせください

有限会社 大島ボテイ

〒965-0080  
福島県会津若松市神指町橋本59番地  
TEL0242-24-7585 FAX0242-32-0775

厚生省生衛第134号

全国介護環境整備協同組合

株式会社 アンミン

〒992-1125  
山形県米沢市万世町片子5152  
TEL0238-21-4340 FAX0238-24-0166